

**「様々な手術麻酔管理における遠位橈骨動脈アプローチによる
動脈カテーテル挿入の有用性」
ご協力をお願い**

研究責任者 札幌医科大学附属病院 麻酔科 准教授 枝長 充隆

1. 研究の概要

1) 研究の目的

橈骨動脈カテーテル留置は、侵襲度の高い手術を受ける方、心血管合併症リスクの高い方、重症度の高い方に対する必須の観血的動脈圧測定方法です。また、現在では穿刺を安全・確実に行うために超音波装置を使用した留置法も行われるようになってきています。現状の穿刺部位は、前腕部の手関節近傍の橈骨動脈ですが、周術期に渡って管理する上で波形になまりが発生して、不正確な血圧を示すことが多いために固定具を使用することがあります。しかしながら、固定具を使用しても波形になまりが発生するのが現状であり、明確な解決法が見当たりません。近年、冠動脈造影時に橈骨動脈アプローチが行われていますが、最近では、橈骨動脈背側枝アプローチ法という新しい方法も知られるようになってきました。本法は、手関節より末梢側の親指と人差し指の間から穿刺する方法です。利点としては、固定がしやすいだけでなく、止血時間も少なく合併症が少ないことが報告されています。そこで、本法を手術麻酔に使用することで、波形の変動が少なく様々な手術において使用できるのではないかと考えております。

2) 研究の意義・医学上の貢献

麻酔科領域における橈骨動脈背側枝アプローチ法を本研究にて検討することで、様々な体位（仰臥位、側臥位、腹臥位）手術において橈骨動脈穿刺の選択肢が広がることが予想されます。

2. 研究の方法

1) 研究対象者

札幌医科大学附属病院において手術を受ける方のうち、橈骨動脈カテーテル留置を予定しかつ麻酔時間が2hrを超えることが予想される方を研究対象とします。

2) 研究期間

病院長承認日～2023年3月31日

3) 予定症例数

50名

4) 研究方法

麻酔導入前に、超音波装置を使用して右手あるいは左手の橈骨動脈背側枝に向けてカテーテルを留置します。その後は、15分間隔でカテーテルによる動脈圧の波形をモニターで確認し、圧波形のなまりの発生率を調べます。また、仰臥位、側臥位、腹臥位の3つの体位での違いを調べます。

5) 使用する情報

この研究に使用するのは、年齢、性別、身長、体重、橈骨動脈圧波形のなまりの程度、手術体位、手術術式、手術時間、麻酔時間です。分析を行う際には氏名、生年月日などのあなたを特定できる情報は削除して使用し

ます。また、あなたの情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

6) 試料・情報の保存、二次利用

この研究に使用した情報は、研究の中止または研究終了後5年間、札幌医科大学麻酔科で保存させていただきます。電子情報の場合はパスワード等で管理・制御されたコンピューターに保存します。その他の情報は、施錠可能な保管庫に保存します。なお、保存した情報を用いて新たな研究を行う際は、臨床研究審査委員会（倫理委員会）にて承認を得ます。

7) 情報の管理責任者

この研究で使用する情報は、以下の責任者が管理します。

札幌医科大学附属病院 麻酔科 枝長充隆

8) 研究結果の公表

この研究は氏名、生年月日などのあなたを特定できるデータをわからない形にして、学会や論文で発表しますので、ご了解ください。

9) 研究に関する問い合わせ等

この研究にご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、あなたの情報が研究に使用されることについて、あなたもしくは代理人の方にご了承いただけない場合には研究に使用しませんので、2023年4月31日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。お申し出をいただいた時点で、研究に用いないように手続をして、研究に用いられることはありません。この場合も、その後の診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

ご連絡頂いた時点が上記お問い合わせ期間を過ぎていて、あなたを特定できる情報がすでに削除されて研究が実施されている場合や、個人が特定できない形ですでに研究結果が学術論文などに公表されている場合は、解析結果からあなたに関する情報を取り除くことができないので、その点はご了承下さい。

<問い合わせ・連絡先>

名称：札幌医科大学附属病院 臨床研究審査委員会

設置者：札幌医科大学附属病院長

所在地：札幌市中央区南1条西16丁目

お問い合わせ先：札幌医科大学事務局研究支援課臨床研究係

TEL011-611-2111（内線31460, 31470）